

大学

プレスセンター
ニュースダイジェスト

Vol.120

新入生向けサポートが充実！ 安心して大学生生活をスタート

大学に入ったばかりの新入生は、まだ自分の居場所が定まらず、わからないことばかりで不安も多い。そこで大学では、新入生が安心して学生生活をスタートできるように、さまざまなサポートを行っている。



フェリス女学院大の新入生向け相談ブース。履修方法や学生生活全般の質問に先輩が答える

フェリス女学院大(横浜市)では、2・3年生の「上級生リーダー」が新入生のサポートを行っている。

いる。主な取り組みは二つある。一つは、学外で行われるオリエンテーションの企画・運営。新入生と教員が一堂に会する一大イベントだ。40年以上の歴史があり、今年4月6日にパシフィコ横浜で開催された。司会や会場内の誘導だけでなく、教員と新入生の距離を縮める役割も担った。雰囲気作りとこまやかな配慮が大切だという。もう一つの活動が、相談ブース「Ask Us!」の運営だ。4月中旬に学内に設置され、科目履修の仕組みや課外活動など、学生生活のあらゆる疑問に対して先輩の立場からアドバイスする。今年の上級生リーダーは総勢65人。「何かをやり遂げたい」「自らアクションを起こせる人間になりたい」と志願した学生が多い。文学部3

年の池上優理亜さんがこう話す。「新入生の時に接した上級生リーダーに憧れてこの活動に参加しました。準備に半年かかりますが、それを補って余りある達成感があります。新入生には、高校時代のペースを崩さずに勉強することと、大人になった時に誇れるものを持つてほしいと伝えています。これは私が新入生の時に上級生リーダーから受けたアドバイスです。このように言葉が語り継がれていくのだと感じます」

法政大(東京都千代田区)も4月上旬に新入生向けのブースを設置。36人の先輩学生が相談に応じた。10日間の相談件数は延べ1757件に上ったという。新入生向けの冊子「学び場ガイド」の編集にも先輩学生が携わる。学内施設や正課授業以外の学びの場、仲間作りのためのプログラムなどを紹介している。教職員が気づかなかつた施設の新たな利用方法など、随所に、学生目線が取り入れられているのが特徴だ。冊子は同大のホームページでも公開している。

東洋学園大(同文京区)は入学

式前の3月下旬に、入学予定者向けのオリエンテーションを実施した。参加率は約9割で、一足早くキャリア教育科目を体験した。グループワークでコミュニケーションを図り、友達作りの機会にもなった。この講座を担当した宮園久栄教授がこう話す。

「新入生の中には、勉強や友人関係でつまづいた経験を持つ人も少なくありません。入学前に学びへの不安をなくし、友達作りの場を大学が提供することで、入学する時には既に自分の居場所がある、と感じられることが重要だと思います。それが入学後の主体的な学びにもつながると考えています」

京都産業大(京都市)は、希望者が泊りがけで参加する「フレッシュヤーズコミュニケーション」を実施している。今年も京都市内のセミナーハウスに1泊して行われた。硬軟織り交ぜたプログラムが組まれ、グループワークではアドバイザーの先輩学生や卒業生がリードする。仲間と寝食をともにすることで帰属意識が生まれ、大学生活への不安も払拭されていくという。